



湯ノ丸山のレンゲツツジ

平成30年度婦恋郷土資料館友の会総会	P-1
平成30年度ボランティアガイド養成講座	P-1
令和元年度企画展「浅間山の災害と減災」	P-2
平成30年度ボランティアガイド村外研修会	P-2
平成30年度「婦恋学」講座	P-3
資料館周辺落ち葉清掃と植木の刈込・草刈	P-3
連載 資料館の文化財「黒色磨研注口土器」	P-4
お知らせ	P-4

編集 婦恋郷土資料館友の会 2019年7月発行 第 29号

婦恋郷土資料館友の会だより

婦恋郷土資料館「友の会」（唐沢忠夫会長）では、平成30年度から令和元年にわたり様々なイベントを企画、活発な活動を繰り広げてまいりました。今回の「友の会だより」第29号では、平成30年度・令和元年上半期のイベントや活動の模様をダイジェストとしてご紹介いたします。

平成30年度婦恋郷土資料館友の会総会が開催されました

平成31年3月26日、郷土資料館3階展望室にて平成30年度総会が会員16名の出席をいただき開催されました。平成30年度事業報告及び収支決算、平成31年度事業計画案及び予算案が審議され、いずれも承認をいただきました。総会後には松島榮治名誉館長より特別講演をいただきました。（欠席の会員の皆様方には総会資料を送付させていただきました。）



「ボランティアガイド養成講座」が開催されました



・4月6日 「郷土資料館をガイドしてみよう」

講師:資料館ボランティアガイド

内田 洪三氏

・4月13日 「鎌原観音堂をガイドしてみよう」

講師:資料館ボランティアガイド

鳴釜 和子氏

参加されました方々からは多くの質問が飛び交いました。又数人の方はボランティアガイドとして加わっていただくことになっております。



令和元年度企画展「浅間山の災害と減災」が開催されます



令和元年7月1日(月)

～8月31日(土)まで

開催場所: 嬬恋郷土資料館(特別展示室)

9:00～16:30(入館は16:00まで)

主催: 嬬恋村 嬬恋村教育委員会

嬬恋郷土資料館 嬬恋郷土資料館友の会

協力: 国土交通省関東地方整備局

(利根川水系砂防事務所)

浅間山は日本を代表する活火山です。天明三年(1783年)の大噴火から236年経過する中で近年2回の中規模噴火がありました。幸い甚大な被害は免れましたが依然火山活動は続いています。しかし国内屈指の観測体制を整えており、浅間山の活動状況に応じて噴火警戒レベルを発表し、火山防災マップにより警戒避難体制の強化を図っています。特に平成24年からは「火山噴火緊急減災対策」砂防事業に着手しています。

本企画展関連見学会を予定しています。詳細は後程ご連絡をいたします。

ボランティアガイド村外研修会に出かけました

3月13日、群馬県立土屋文明記念文学館、榛名神社及び小栗上野介墓を訪ねるボランティアガイド村外研修に総勢9名で出かけました。

群馬県高崎で育った歌人土屋文明を記念して群馬県ゆかりの文学資料を収集展示した記念文学館では、特別展として「天明の浅間焼と『羽鳥(はとり)一紅(いっこう)』—浅間山大噴火を記した高崎の女流文人」が開かれていました。60歳にあたる天明三年の浅間山大爆発災害の生々しい様子を女性らしく流麗な文書で綴った「文月浅間記」に触れることが出来ました。

次に訪れたのが、どんな願いをも叶えてくれるという関東随一のパワースポット榛名神社、皆さんそれぞれの願いを…そして、本社殿の上を覆うような大岩にびっくり。

その後訪れたのは、幕末に、横須賀造船所に代表される近代化に力を注いだ小栗上野介終焉の地。薩長を中心とする官軍に徹底抗戦を唱えたばかりに故郷の地で処刑の目にあったのが嬬恋に至る街道にある権田村でした。歴史を刻む上野国ゆかりの人々をたどる研修の一日でした。



平成30年度「孀恋学」講座が開催されました



・2月9日 「外から見た浅間山北麓とジオパーク活動の魅力」

講師 坂口 豪氏

・2月16日 「石仏の見方・楽しみ方」

講師 嶋村 明氏

・2月23日 「脇往還として賑わった浅間高原」

講師 下谷 通氏

・3月2日 「失敗の力」

講師 山崎 良次氏

・3月9日 「浅間山噴火大和讃とみごだんご」

講師 宮崎 光男氏

・3月16日 「南北朝時代に映る浅間山」

講師 尾上 友紀氏

6講座218名の方の参加をいただきました。

郷土資料館周辺の落ち葉清掃と植木の刈込・草刈を行いました

・4月20日に資料館周辺のボランティア落ち葉清掃作業が9名の参加により行われました。資料館周辺がすっかりきれいになりました。

・6月11日に恒例の資料館周りの草刈り、植木の剪定が12名のボランティア参加で行われました。梅雨のつかの間の晴れ間でした。

ご参加いただきました皆様方お疲れ様でした。



連載(1) 嬬恋郷土資料館の文化財「黒色磨研注口土器」(県指定重要文化財)



平成5年、今井の東平遺跡から大小2個の黒色磨研注口土器が墓とみられる配石遺構下の穴から無傷の状態で発見されました。

土器の大小の大きさおよび幅と高さの比率は1対 $\sqrt{2}=1.4$ とバランスが良く、日本の原始美術品として優れています。

土器の文様や形などからして、縄文時代後期の今から3,500年前のものと考えられており、土器製作の専門技術者による量産が考えられます。また、土器を所有し、副葬品とする立場の人の存在が考えられます。

平成9年、2個の土器は、県指定重要文化財に指定されています。

嬬恋郷土資料館の特別展示室で間近にご覧いただけます。

お知らせ



嬬恋郷土資料館に本年4月から新しいメンバーが赴任されました。

斉藤さなえさんです。

一言コメント

「臨時職員としてお世話になってます斉藤です。埼玉県より移住してきました。これから素敵な嬬恋村をたくさん知りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。」